

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—162772

⑪ Int. Cl.<sup>3</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和55年(1980)12月18日

C 07 D 213/64

7138—4C

発明の数 1

213/65

7138—4C

審査請求 未請求

213/68

7138—4C

213/70

7138—4C

213/82

7138—4C

213/85

7138—4C

215/22

7306—4C

217/14

7306—4C

217/24

7306—4C

235/26

7306—4C

239/32

6670—4C ※

(全 6 頁)

⑭ 置換酢酸誘導体の製造法

尼崎市武庫豊町2の5の53の30  
3

① 特 願 昭55—69434

① 出 願 人 塩野義製薬株式会社

② 出 願 昭49(1974)5月22日

大阪市東区道修町3丁目12番地

③ 特 願 昭49—58244の分割

④ 代 理 人 弁理士 岩崎光隆

⑤ 発 明 者 浜田芳徳

最終頁に続く

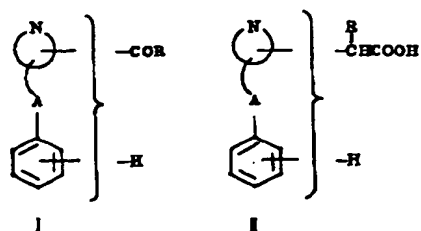
明 細 書

1 発明の名称

置換酢酸誘導体の製造法

2 特許請求の範囲

一般式Ⅰで表わされる化合物にアルコキシメチレン三炭化水素基置換フォスホランを反応させ、得られる化合物を加水分解しついで酸化して一般式Ⅱで表わされる化合物を得ることを特徴とする置換酢酸誘導体の製造法。



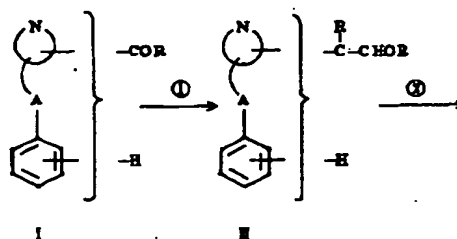
(式中、Nはピリジン、ピリミジン、イミダゾールまたはチトラゾールを表わし、Rは炭化水素基を表わし、Aは酸素または硫黄を表わし、Nおよび上記ベンゼン環上には反応に影響を及ぼさない)

3個の置換基を有していてもよくあるいは結合ベンゼン環または結合脂環を有していてもよく-COR基はこの結合ベンゼン環上にあつてもよい。

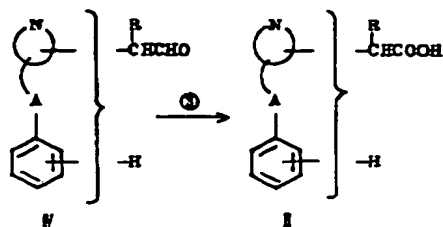
3 発明の詳細な説明

本発明は置換酢酸誘導体の製造法に関し、その目的は優れた抗炎症作用(抗リウマチ作用も含む)および鎮痛作用を示し医薬または動物薬として有用な置換酢酸誘導体を得る点にある。

本発明方法の要旨は次式によつて示される。



(以下余白)



(式中、 $\text{N}$ はピリジン、ピリミジン、イミダゾールまたはチトラゾールを表わし、 $\text{R}$ は炭化水素基を表わし、 $\text{A}$ は酸素または硫黄を表わし、 $\text{N}$ および上記ベンゼン環は反応に影響を及ぼさない1〜3個の置換基を有していてもよくあるいは結合ベンゼン環または結合環を有していてもよく、 $-\text{COR}$ 基はこの結合ベンゼン環上にあつてもよい。 $\text{R}$ はアルキル基を表わす。)

本発明方法は一般式Iで表わされる化合物をアルコキシメチレン三炭化水素置換フォスホランと反応させるいわゆるウィティツヒ(Wittig)反応に付し(反応①)、得られる化合物IIを加水分解に付し化合物IIIとした(反応②)後酸化反応に

- 3 -



常不活性気流中で行われる。得られる化合物IIIはついで反応③すなわち加水分解反応に付し、アルコキシメチレン基をアルデヒド基にする。この加水分解は通常エノールエーテルを加水分解する際に用いられる手段を用いることができる。例えば、酸として塩酸、硫酸、硝酸またはこれらと有機酸(例えば、酢酸)などの混合物を用いることができ、塩基として水酸化アルカリ、炭酸アルカリなどが用いられ水あるいは含水層液の存在下で加熱することにより実施される。生成する化合物IIIは単離することなく次工程④に付することができる。

反応④は化合物IIIのアルデヒド基をカルボキシル基に変えるもので一般のアルデヒド基をカルボキシル基に変換する酸化反応に準じて行えばよい。例えば過マンガン酸カリウム、過酸化水素、酸化銀などにより水中または有機溶媒中で酸化してもよいし、硝酸、クロム酸、希硫酸と過酸化鉛、または過酸化酢酸などにより酸化してもよい。なお上記反応①、②および④の工程において反応を受ける環上の置換基は各反応の前後に置換基を修飾

- 5 -



特開55-162772(2)

付して目的とする置換酢酸誘導体Iを得る(反応⑤)ものである。

次に本発明方法の実施について詳細に記する。反応①は通常のウィティツヒ反応に従って行えばよく、種々のアルコキシメチレン三炭化水素置換フォスホラン(例えば、メトキシメチレントリフェニルフォスホラン、メトキシメチレントリ(メトキシメチル)フォスホラン、エトキシメチレントリブチルフォスホランなど)が原料化合物と反応条件に応じて適宜選択し使用される。例えば、上記フォスホランにハロゲン化水素が付加したフォスホニウム塩を使用し、有機金属(例えば、フェニルリチウム、ブチルリチウムなど)を用いてエーテル類(例えば、エーテル、ジビニルエーテル、テトラヒドロフランなど)中で必要に応じて加温下で化合物Iと反応させるか、あるいはアルカリ金属アルコキサイド(例えば、ナトリウムノテラート、ナトリウムエテラートなど)を用いアルコキサイドと対応するアルコール中で反応させるのが通常実験的である。反応は適

- 4 -



することにより、最終において目的化合物を得るようにすることができる。

なお、原料化合物Iはハロゲンピリジン類にフェノール類またはチオフェノール類を必要に応じて置換性物質の存在下に反応させることにより、製造される。

かくして得られた化合物IIはさらに分離、精製あるいは製剤化、その他の必要に応じて、適当なアルカリ金属塩(例えば、ナトリウム、カリウムなど)、アルカリ土類金属塩(例えば、カルシウム、マグネシウム、バリウムなど)、その他アルミニウム塩などに常法に従って変換することができる。

本発明方法の目的化合物である置換酢酸誘導体及びその塩類は優れた抗炎症作用(抗リウマチ作用も含む)または鎮痛作用を示し、医薬または動物薬として有用な化合物である。

以下実施例において本発明方法の実施態様を示す。

実施例1

- 6 -



粉末にしたメトキシメタレントリフェニルフォ  
スフオリウムクロライド $3.32g$ をエーテル  
 $240ml$ に懸濁し、内温 $15\sim 20^{\circ}C$ で $1/25$   
モルフェニルリチウムエーテル溶液 $60ml$ を滴下  
後 $15^{\circ}C$ で $15$ 分間かきまぜる。2-フェノキシ  
-3-アセチルピリジン $2/4g$ のエーテル溶液  
 $140ml$ を $30$ 分で滴下後室温で $14$ 時間かきま  
ぜる。不溶物を除去し母液に水を加えエーテル  
で抽出する。抽出液を水洗、乾燥後溶媒を留去し  
残渣 $17.62g$ をシリカゲルカラムクロマトに付  
す。ベンゼン/酢酸エチル $(50:1)$ 溶出部を  
減圧蒸留すると $b_{46}^{100mmHg}/47\sim 49^{\circ}C$ の2-フェ  
ノキシ-3-(1-メチル-2-メトキシビニル  
)ピリジン $5.42g$ を得る。

元素分析  $C_{17}H_{19}O_2N$ として  
計算値: C, 74.66; H, 6.27; N, 5.87  
実験値: C, 74.94; H, 6.37; N, 5.79  
IR  $\nu_{CHCl_3}^{max} 1658, 1590$   
NMR  $\delta(CDCl_3) 1.88, 1.95(3H, s), 1.367,$   
 $3.70(3H, s), 6.12, 6.33(3H, q)$

- 7 -



特開昭55-162772(3)

本品 $4.6g$ を $2N$ 濃度 $50ml$ に加え、真空気  
流中一夜かきまぜた後反応液にベンゼン $10ml$ を  
入れ真空気流中通マンガン酸カリウム $13g$ の水  
溶液 $30ml$ を $30$ 分で滴下さらに室温で $10$ 分間  
かきまぜた後不溶物を除去し母液を炭酸水素ナ  
トリウムで $pH 3\sim 4$ としてエーテルで抽出する。抽  
出液を $5\%$ 炭酸水素ナトリウム水溶液で抽出し、  
 $10\%$ 塩酸で $pH 4$ とした後エーテルで再び抽出す  
る。抽出液を水洗、乾燥し溶媒を留去する。残渣  
 $610mg$ をベンゼン/石油エーテルで再結晶する  
と $48.8\sim 49.0^{\circ}C$ の2-(2-フェノキシ-3-  
ピリジル)プロピオン酸 $210mg$ を得る。本品は  
他の方法により調製された製品と同一とされた。

実施例2-103

以下実施例1と同様にして下記の化合物を得る。  
なお、下記表中で用いられる番号は下記の意味を  
表わし、A欄において例えば2-0はピリジン環  
の2位がエーテル結合していることを表わし、X,  
X<sub>2</sub>, Y, Y<sub>2</sub>およびY<sub>3</sub>欄において例えば4-C6はク  
ロルが母核の4位を置換していることを表わす。

- 8 -

Me = メチル基, Me<sub>2</sub> = メトキシ基, Et = エチル基,  
Pr = プロピル基, i-Pr = イソプロピル基,  
Bu = ブチル基, i-Bu = イソブチル基,  
s-Bu = s-ブチル基, t-Bu = t-ブチル基,  
Ac = アセチル基, An = アニリノ基,  
Ca( $nH_2O$ ) = カルシウム塩( $n$  = 水和物),  
Al = アルミニウム塩, d = 分解点。

(以下余白)

- 9 -



実験例 No.	CH <sub>3</sub> COOH の位置	R	A-	X <sub>1</sub>	X <sub>2</sub>	Y <sub>1</sub>	Y <sub>2</sub>	Y <sub>3</sub>	φ (°)
31	4	Me	2-O	H	H	4-Me <sub>2</sub>	H	H	115~144
32	4	Me	2-O	H	H	4-Me <sub>2</sub>	H	H	132~133d
33	4	Me	2-O	H	H	4-Me <sub>2</sub>	H	H	142~143d
34	4	Me	2-O	H	H	4-MeCOO <sub>2</sub>	H	H	136~137d
35	4	Me	2-O	H	H	4-MeCO <sub>2</sub>	H	H	206~208d
36	3	Me	6-O	H	H	4-Me <sub>2</sub>	H	H	119~120
37	4	Me	2-O	H	H	3,4-ベンゾ	H	H	138~139d
38	3	Me	6-O	H	H	4-CN	H	H	120~121
39	3	Me	6-O	4-Me	H	H	H	H	135~136
40	3	Me	6-O	2-Me	H	H	H	H	92~93
41	3	Me	6-O	H	H	3-Me	3-Me	H	115~116
42	3	Me	6-O	H	H	2-C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>	H	H	96~97
43	3	Me	6-O	H	H	2-Me	H	H	45~47
44	3	Me	6-O	H	H	3-Me	H	H	81~82
45	3	Me	6-O	H	H	3-Me	3-Me	H	120~121
46	3	Me	6-O	H	H	3-Me	4-Me	H	90~91
47	3	Me	6-O	H	H	H	H	H	145~146
48	3	Me	6-O	H	H	4-1-Me	H	H	77~78
49	4	Me	2-O	H	H	2-Me	3-Me	H	86~87d
50	3	Me	6-O	3-Me	H	H	H	H	107~108
51	3	Me	6-O	H	H	2-Me	3-Me	H	C <sub>6</sub> (CH <sub>3</sub> O)/95d
52	3	Me	6-O	H	H	2-Me	4-Me	H	C <sub>6</sub> (CH <sub>3</sub> O)/94d
53	3	Me	6-O	H	H	2-Me	4-Me	H	C <sub>6</sub> (CH <sub>3</sub> O)/202d
54	4	Me	2-O	H	H	3-Me	4-Me	H	123~124d
55	4	Me	2-O	H	H	3-Me	3-Me	H	103~104d
56	3	Me	6-O	H	H	2-Me	3-Me	3-Me	128~129
57	3	Me	6-O	H	H	2-Me	4-Me	3-Me	113~114
58	3	Me	6-O	H	H	3-Me	4-Me	3-Me	155~156
59	3	Me	6-O	H	H	2-Me	4-Me	4-Me	135~136
60	3	Me	6-O	H	H	3-(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	C <sub>6</sub> (CH <sub>3</sub> O)/69d	
61	4	Me	2-O	H	H	2-Me	3-Me	3-Me	123~124d
62	4	Me	2-O	H	H	3-Me	4-Me	3-Me	126~127d
63	3	Me	6-O	H	H	2,3-(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	C <sub>6</sub> (CH <sub>3</sub> O)/68~166d	
64	3	Me	6-O	H	H	3,4-ベンゾ	H	H	1205~1215

実測例 No.	重合の 程度	B	-A-	X, X <sub>2</sub>	Y,	Y <sub>2</sub> Y <sub>3</sub>	φ (°D)
2	3	M <sub>0</sub>	3-0	H H H	H	H H	135~1355
3	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	119~1204
4	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H	H H	98~994
5	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	1075~10854
6	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	24~254
7	3	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	111~111
8	3	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H	H H	94~95
9	3	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	114~115
10	2	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H	H H	125~126
11	2	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	118~119
12	4	M <sub>0</sub>	2-8	H H H	H-C	H H	146~147
13	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	129~1304
14	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	101~1024
15	3	M <sub>0</sub>	2-8	H H H	H	H H	1145~1155
16	3	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	98~99
17	4	M <sub>0</sub>	2-8	H H H	H	H H	140~141
18	3	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	140~141
19	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	92~93
20	3	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	106~107
21	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	105~1064
22	3	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	11334
23	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	154~1544
24	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	155~157
25	3	M <sub>0</sub>	2-8	H H H	H-C	H H	140~141
26	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	200~201 (実測)
27	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	140~141
28	4	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	140~141
29	3	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	140~141
30	3	M <sub>0</sub>	2-0	H H H	H-C	H H	140~141

実施例 No.	R	-A-	X <sub>1</sub>	X <sub>2</sub>	Y <sub>1</sub>	Y <sub>2</sub>	Y <sub>3</sub>	mp (°C)
65	3	Me	6-O	H	H	2,3-ベンゾ	H	131~132
66	3	Me	6-O	4-Me	5-Me	H	H H	144~145
67	4	Me	2-O	5,6-ベンゾ	H	H H	C <sub>6</sub> (H <sub>5</sub> O)2/84	216~217
68	3	Me	6-O	4,5-ベンゾ	H	H H		122~123
69	3	Me	6-O	4,5-(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	H H		151~152
70	3	Me	6-O	H	H	3,4-(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	1225~1235
71	3	Me	6-O	H	H	3-Me	H H	69.5~70.5
72	3	Me	6-O	2-Me	4-Me	H	H H	C <sub>6</sub> (H <sub>5</sub> O)2/84
73	3	Me	6-O	H	H	4-OH	H H	167~169
74	3	Me	6-O	H	H	4-AcO	H H	161~162
75	3	Me	6-O	H	H	4-i-Pr	H H	89~91
76	3	Me	6-O	H	H	4-Pr	H H	81.5~82.5
77	3	Me	6-O	H	H	4-t-Bu	H H	112~113
78	3	Me	6-O	H	H	4-o-Bu	H H	67~71
79	3	Me	6-O	H	H	4-Bu	H H	C <sub>6</sub> (H <sub>5</sub> O)140~142
80	3	Me	6-O	H	H	4-i-Bu	H H	C <sub>6</sub> 114~119(d)



実施例 No.	X <sub>1</sub>	X <sub>2</sub>	Y <sub>1</sub>	Y <sub>2</sub>	Y <sub>3</sub>	mp (°C)
81	H	H	H	H	3	76~77
82	H	H	H	H	4	129~130
83	3-CN	H	H	H	4	198~200
84	3-CONH <sub>2</sub>	H	H	H	4	211~212
85	H	H	H	H	4	130~131
86	H	H	H	H	4	150~151
87	3,4-(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	H	H	4	166~167
88	3,4-ベンゾ	H	H	H	4	145~147
89	3-Me	4-Me	H	H	4	155.5~156
90	4-Me	5-Me	H	H	4	142~143
91	4-Me	H	H	H	4	123~124
92	4-Me	H	H	H	4	C <sub>6</sub> (H <sub>5</sub> O)273~275
93	3-Br	H	H	H	4	137~138
94	3-Me	H	H	H	4	152~153
95	5-Me	H	H	H	4	132~134
96	3-Me	H	H	H	4	121~122
97	H	H	3-Me	H	4	107~108
98	H	H	3-Me	H	4	C <sub>6</sub> (H <sub>5</sub> O)158d
99	4	H	H	H	4	136~138
100	H	H	3-Me	H	4	150~151
101	H	H	3-C <sub>6</sub>	H	4	98~99
102	H	H	3-C <sub>6</sub>	H	4	145~146
103	H	H	3-C <sub>6</sub>	5-C <sub>6</sub>	4	137~138

実施例104-107

実施例1と同様にして下記の化合物を得る。

2-(4-(2-ピリジルオキシ)-2-ナフトル)プロピオン酸、mp 197~198℃。

2-(4-(1-フェニル-1,2,4-オキサゾリルオキシ)フェニル)プロピオン酸、mp 65~66℃。

2-(4-(2-ピリジルオキシ)フェニル)プロピオン酸、mp 74~75℃。

2-(4-(1-ナフトル-2-ベンズイミダゾイルオキシ)フェニル)プロピオン酸、mp 84~85℃。

特許出願人 塩野義製薬株式会社

代理人 弁護士 岩崎 光

第1頁の続き

⑤Int. Cl.<sup>3</sup>

//A 61 K 31/415

31/44

31/455

31/47

識別記号

ABG

ABE

AAH

ABG

庁内整理番号

⑥発明者 岡田哲夫

堺市三条通2の5